

## 保育事業の現状について

### 1 待機児童について

#### (1) 保育園入園申し込み待機児童数の推移について

各年度4月1日現在

《単位：人》

年度	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	待機児童数計	前年度比	就学前児童数	前年度比
26	39	77	36	13	2	0	167	-7	9,829	101
27	39	93	43	3	0	0	178	11	10,038	209
28	26	82	53	5	0	1	167	-11	10,058	20
29	32	40	12	5	0	0	89	-78	10,168	110
30	9	61	22	4	0	0	96	7	10,062	△106

※就学前児童数：外国人世帯を含む

#### (2) 待機児童対策について

##### ① 西・中央地域

既存の保育施設等の活用の検討

##### ② 東地域

大規模住宅による保育ニーズを見込んだ対策の検討

※上記の内容は、現在、調整を行っておりますので変更の可能性があります。

## 2 小平市立鈴木保育園の私立保育園への移行に関する検証報告書について

### (1) 報告書作成の概要

平成22年12月策定「公立保育園の運営のあり方に関する方針」及び平成24年3月策定「鈴木保育園の私立保育園への移行ガイドライン」に基づいて、「公立保育園の役割の充実」及び「公立保育園の運営方法の見直し」という二つの視点に沿って、平成28年4月、鈴木保育園を私立保育園へ移行しました。この二つの視点や保育事業者の提案書等の内容を踏まえて、結果の検証を行い、今後の公立保育園運営の参考とします。

### (2) 報告書の内容

報告書においては、主として下表のとおり検証し、移行において目指す成果について概ね達成し、良好な結果を残すことができたものとなりました。

検証内容	検証結果の要旨
①移行における提案と条件の達成状況	定員設定、開園時間、保育計画、障がい児保育、食育、地域連携、危機管理等各種の取組について、概ね達成
②合同保育の実施状況	保育事業者と保護者の関係性を構築する等、移行後の保育を円滑に実施することに寄与
③移行後の保育所運営	鈴木保育園から児童の情報や保育目標・方針を引き継いで実践
④保護者アンケート及び保育事業者ヒアリングの総括	私立保育園への移行について、保護者は概ね満足
⑤移行後の市保育士の人材活用と公立保育園の事業への効果	地域支援担当配置による子育て支援の拡充、0歳児保育・一時預かりの定員増の達成
⑥建設費・運営費における公立保育園とのコスト比較	建設費・運営費、いずれにおいても、私立保育園の方が費用対効果が高い

### 3 小平市の保育の現状と課題について

#### (1) 就学前児童数

増加傾向であった就学前児童数は平成 30 年度に減少しております。

図表 1 小平市の就学前児童数の推移

《単位：人》

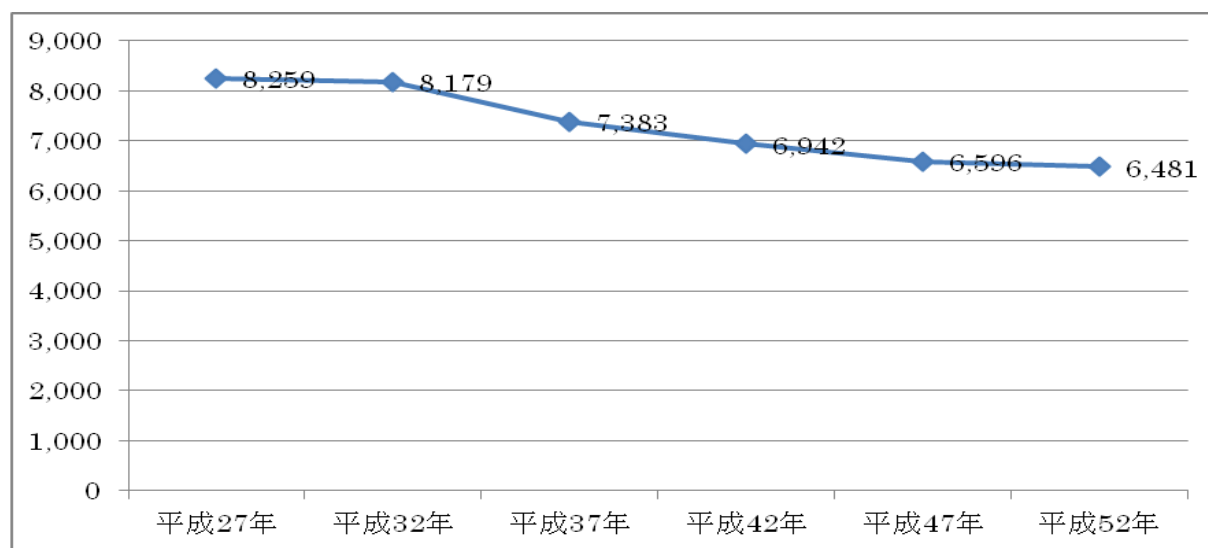
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
0 歳	1, 599	1, 515	1, 514	1, 620	1, 578
1 歳	1, 558	1, 593	1, 585	1, 658	1, 657
2 歳	1, 526	1, 539	1, 627	1, 644	1, 654
3 歳	1, 593	1, 530	1, 573	1, 667	1, 655
4 歳	1, 472	1, 577	1, 540	1, 573	1, 687
5 歳	1, 544	1, 446	1, 580	1, 566	1, 598
計	9, 292	9, 200	9, 419	9, 728	9, 829
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
0 歳	1, 623	1, 616	1, 617	1, 456	1, 604
1 歳	1, 666	1, 663	1, 691	1, 678	1, 675
2 歳	1, 681	1, 683	1, 708	1, 706	1, 688
3 歳	1, 686	1, 702	1, 720	1, 755	1, 707
4 歳	1, 674	1, 702	1, 717	1, 731	1, 702
5 歳	1, 708	1, 692	1, 715	1, 736	1, 708
計	10, 038	10, 058	10, 168	10, 062	10, 084

※平成 22～30 年は 4 月 1 日現在の住民基本台帳人口。平成 31 年は小平市子ども子育て支援事業計画策定時に行った将来人口推計。

平成 27 年国勢調査による小平市人口推計報告書では平成 32 年以降、0 から 4 歳の人口は減少することが見込まれております。

図表 2 平成 27 年国勢調査による小平市人口推計(0～4 歳人口)

《単位：人》



## (2) 待機児童の状況

認可保育園の定員数が拡大しているものの、1歳児と2歳児の待機児童数は高い水準となっております。

図表3 平成22、27、30年度の待機児童数

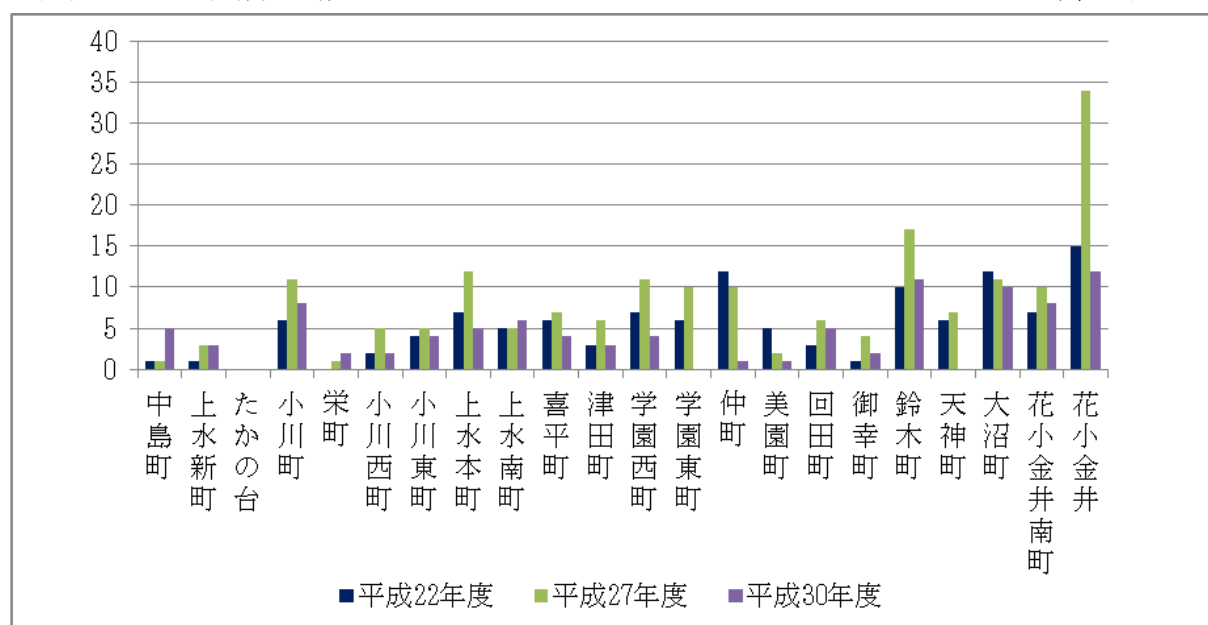
《単位：人》

年度	待機児童数							認可保育園 定員数
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計	
平成22	26	52	20	19	0	2	119	1,811
平成27	39	93	43	3	0	0	178	2,734
平成30	9	61	22	4	0	0	96	3,421

居住する町別の待機児童数を平成22、27、30年度で比較しますと、学園東町、仲町、美園町など市中心地域の待機児童数が大きく減少している一方、花小金井や鈴木町など市の東側においては、待機児童数が減少傾向にあるものの高い水準となっております。

図表4 町別待機児童数

《単位：人》



### (3) 保育サービスの利用状況

#### ① 施設サービスの状況

私立保育園の定員は平成 22 年度の 654 人から平成 29 年度は 1,721 人増の 2,375 人となっております。この間、私立保育園の施設数は 8 園から 33 園に増加しております。

図表 5 施設別の定員、在籍児童数の推移

《単位：人》

		平成22年度	平成27年度	平成29年度
公立保育園	定員	1,157	1,148	1,046
	在籍児童数	1,202	1,171	1,065
私立保育園	定員	654	1,586	2,375
	在籍児童数	721	1,553	2,197
小規模保育事業	定員	0	0	18
	在籍児童数	0	0	14
認証保育所	定員	310	273	278
	在籍児童数	271	264	276
認定家庭福祉員	定員	91	96	82
	在籍児童数	88	82	76
認定こども園	定員	218	275	260
	在籍児童数	225	259	229
幼稚園アットホーム事業	定員	—	—	—
	在籍児童数	186	262	278

※各年 4 月 1 日現在

#### ② 多様な保育サービスの状況

認可保育園においては延長保育、一時預かりなど多様な保育サービスを行っております。公立保育園の特徴としては、比較的経験を経んだ保育士が多くいることや他の公的機関との連携が容易であることなどがあげられます。一方、私立保育園は、保護者の保育ニーズに迅速に対応していることがあげられます。

図表 6 公立と私立保育園保育サービス比較

		公立保育園		私立保育園	
開所時間		9園全園      7：15～18：15		33園      7：00～18：00	
延長保育	時間	9園全園      18：15～19：00		19園      18：00～19：00	
				13園      18：00～20：00	
				1園      18：00～20：30	
	受入 年齢	9園全園      1歳児クラスから		17園      生後5 7 日から	
				12園      概ね満1 歳から	
				4園      満1 歳から	
0 歳児保育		9園中5園で実施		33園全園で実施	
一時預かり		1園で実施		9園で実施	
緊急一時保育		9園全園で実施		実施していない	
定期利用保育		実施していない		3園      1,2歳児クラスの待機児童	
休日保育		実施していない		実施していない	

#### (4) 建設費

私立保育園の建設費に対しては、東京都の補助金等を多く活用できるため、公立保育園と比較すると市負担割合が低くなります。

図表 7 公立保育園と私立保育園の建設費に対する市負担割合

	総経費 (B)	都補助金	雑入	市負担額 (A)	市負担割合 (B/A) %
小川西保育園	641,292 千円(事業費)	56,200 千円	1,600 千円	583,492 千円	91.0%
すずのき台保育園	204,456 千円(建設費補助)	185,773 千円	0 千円	18,683 千円	9.1%

#### (5) 運営費

公立保育園と私立保育園の運営費に対する市負担分を比較すると、公立保育園の方が大きくなります。一方、私立保育園の運営費は、待機児童対策として新園を開設してきたため、平成22年度と平成28年度の市負担を比較しますと約10億円の増となっております。

図表 8 認可保育園運営に要する経費と財源構成

年度	内訳	公立保育園		私立保育園	
		金額(千円)	割合	金額(千円)	割合
平成22	国負担分	0	0.0%	232,024	18.0%
	都負担分	155,118	8.3%	303,876	23.6%
	保護者負担分	204,608	11.1%	158,703	12.3%
	市負担分	1,442,937	78.0%	593,955	46.1%
	その他	48,160	2.6%	0	0.0%
	合計	1,850,823	100.0%	1,288,558	100.0%
平成28	国負担分	0	0.0%	741,392	21.1%
	都負担分	280,747	16.0%	713,790	20.3%
	保護者負担分	247,594	14.1%	466,887	13.3%
	市負担分	1,181,674	67.5%	1,588,590	45.3%
	その他	41,542	2.6%	0	0.0%
	合計	1,751,557	100.2%	3,510,659	100.0%

低年齢になるほど経費が大きくなり、特に0歳児の負担が大きくなっております。

図表 9 児童一人当たりにかかる年齢別経費 (1カ月分)

《単位：円》

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児以上
公立保育園	431,000	193,000	154,000	110,000	92,000
私立保育園	362,000	187,000	172,000	108,000	91,000

※平成28年決算

(6) 公立保育園の老朽化

公立保育園 9 園のうち 7 園が築年数 40 年を超え、施設の老朽化が進んでおります。

図表 10 公立保育園の園舎の状況

平成 30 年 4 月 1 日現在

園 名	建築年月	築年数	延床面積	定員
大沼保育園	平成14年3月	16年	981.6m <sup>2</sup>	132人
喜平保育園	昭和40年8月	53年	676.8m <sup>2</sup>	120人
津田保育園	昭和43年3月	50年	680.0m <sup>2</sup>	120人
小川保育園	昭和45年3月	48年	720.2m <sup>2</sup>	120人
小川西保育園	平成27年3月	3年	1070.9m <sup>2</sup>	109人
仲町保育園	昭和47年3月	46年	813.4m <sup>2</sup>	130人
花小金井保育園	昭和49年5月	44年	630.1m <sup>2</sup>	100人
上宿保育園	昭和51年3月	42年	717.8m <sup>2</sup>	109人
上水南保育園	昭和53年3月	40年	642.6m <sup>2</sup>	106人

(7) 課題

① 待機児童対策

- ・待機児童の解消を目指し、認可保育園等の整備を積極的に進めているものの、1, 2 歳児を中心に待機児童数は高い水準で推移しております。
- ・小平市人口推計報告書では平成 32 年以降、0～4 歳人口は減少する見込みとなっております。

② 保育事業内容

- ・就労形態の変化などから多様な保育サービスが求められております。
- ・保育サービスの量的拡充だけでなく、保育サービスの質の向上への取組が必要です。
- ・地域における子育て支援の充実が求められております。

③ 行政経営

- ・認可保育園等を整備してきたため、運営費に対する市負担が増加しております。
- ・老朽化した公立保育園の改築や大規模な修繕が必要です。